

広島高速5号線シールドトンネル工事の進捗状況等について

1 要旨・目的

広島高速道路公社が事業を進めている広島高速5号線のシールドトンネル工事の進捗状況等について報告する。

2 現状・背景

シールドトンネル工事については、令和3年10月から牛田地区の住宅地区間を掘進しており、地表面変位の抑制などの対策を取りながら慎重に工事を進めている。

また、費用負担等に係る契約変更の内容について、受注者から公社に対し、中央建設工事紛争審査会に調停申請した旨の連絡が令和4年12月5日にあった。なお、公社及び受注者ともに、これまでと同様に安全・安心を第一として早期完成を目指し工事を継続していくこととしている。

3 概要

(1) 対象者

—

(2) 事業内容（実施内容）

ア 牛田地区におけるシールドトンネル工事の掘削状況

9月10日時点で、住宅地区間約350mのうち約284m地点（シールドトンネル工事延長約1,400mのうち約930m地点）に到達しており、住宅地区間は残り約66mとなっている。

地表面変位については、計測点(UL1-14)において9月は+0.2mm～+0.5mmで推移しており、引き続き変動を注視していく。

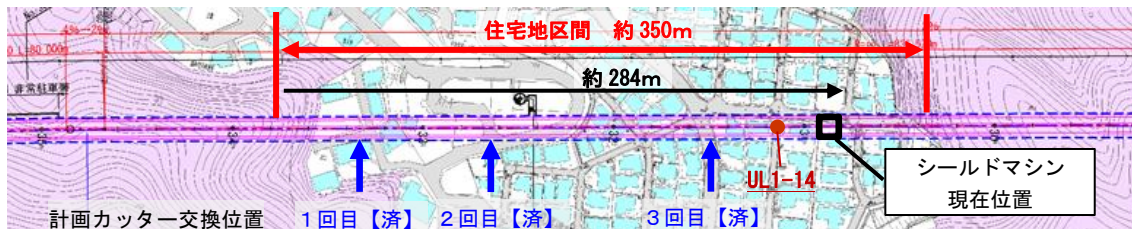
イ 臨時点検の状況

カッターを固定する部品（ナット）を8月7日に回収したことから、住宅地区間で8回目の臨時点検を実施した。その結果、全てのカッターにおいて損傷はなかったものの、シングルカッター全65箇所のうち1箇所において、カッターを固定しているナットが外れていたことが確認されたため、65箇所全てのナットを交換した。また、摩耗が進行していた外周部19箇所のカッターを交換し、28日から掘削を再開した。

掘削再開後、カッターを固定する部品（ボルトの一部）を9月4日に回収したことから、住宅地区間で9回目の臨時点検を行っている。

ウ 騒音・振動への対応

騒音・振動の影響については、個別訪問により住民の意見や感じ方を聞き取りするなど丁寧な対応を行っており、引き続き、住民のニーズに沿って柔軟に対応する。



(3) スケジュール

—

(4) 予算（単県）

令和5年度 広島高速道路公社出資金・貸付金 650百万円

(5) 今後の対応

点検にあたっては、住民が不安に思われている地表面変位の状況を注視しながら慎重に作業を進めていく。また、今回の事象が生じた原因など点検結果について、安全・安心対策協議会等でわかりやすく説明するなど、引き続き住民の不信や不安を可能な限り払拭できるよう、公社や広島市と連携し丁寧な対応に努める。